

# 2012-14-2 フランス鴨の肝臓と食道 牛病理:阿部 祥次

**提出機関:** ニューヨーク 野生動物保護協会 Zoological Health

**患畜:** フランス鴨、5歳半、雄

**病歴:** 前兆なしに死亡しているのが見つかった。

**肉眼病変:**

**肝臓:** 多発性、融合性の黄褐色病巣を伴う、中等度、広範性の腫大。  
上記病巣は隆起ではなく、実質内に及んでいた。

**十二指腸、遠位小腸、盲腸および結腸:** 赤色がかった暗褐色液が充満。

**回腸および盲腸粘膜:** 多発性の隆起した黄褐色病変。

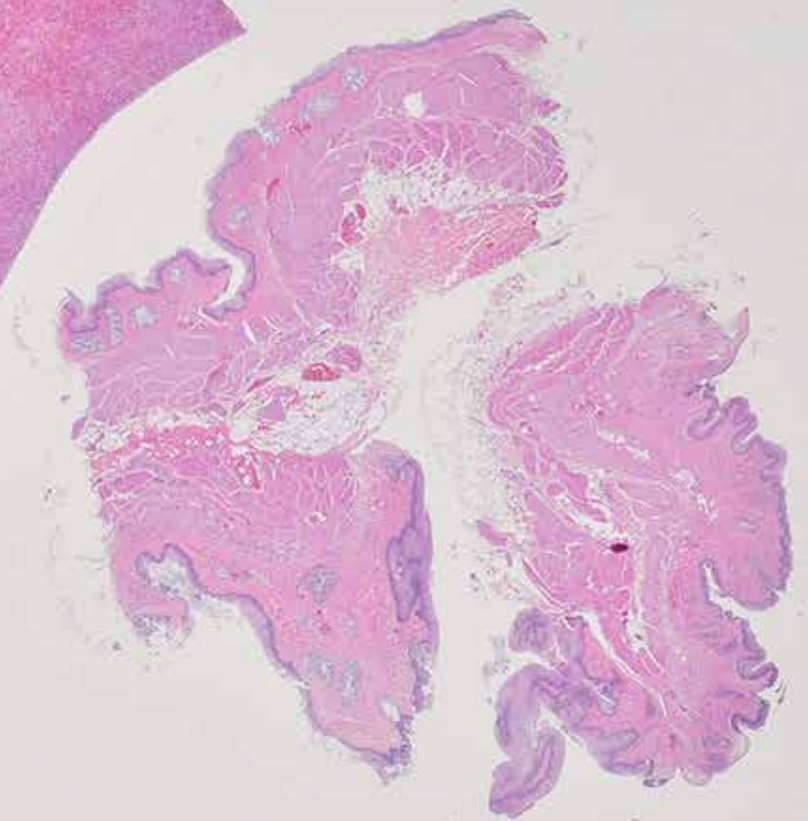
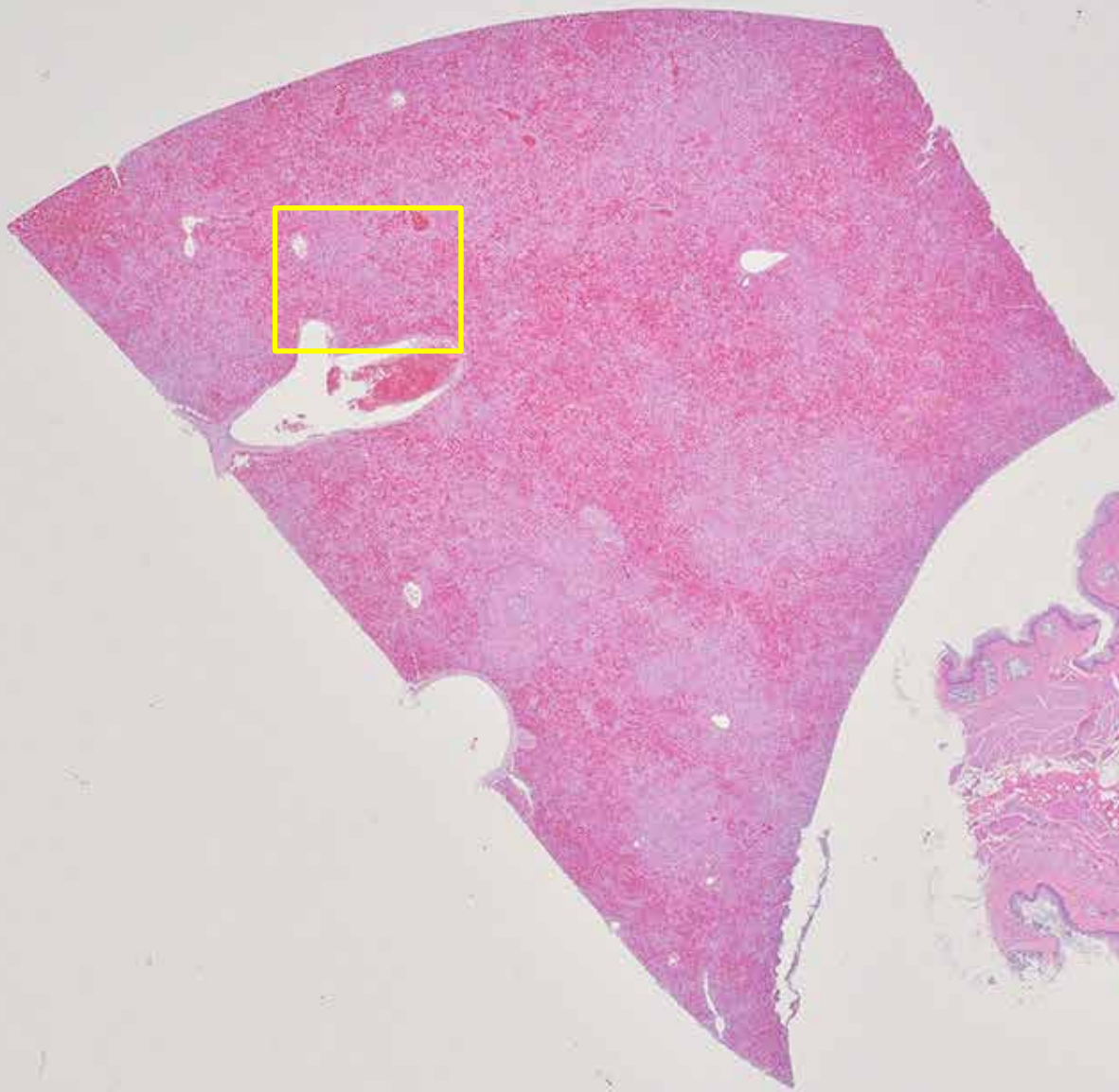
**食道粘膜:** 直径1mmの赤から褐色の点状病変。

**左心室:** 心外膜および心内膜に赤い筋や斑点。

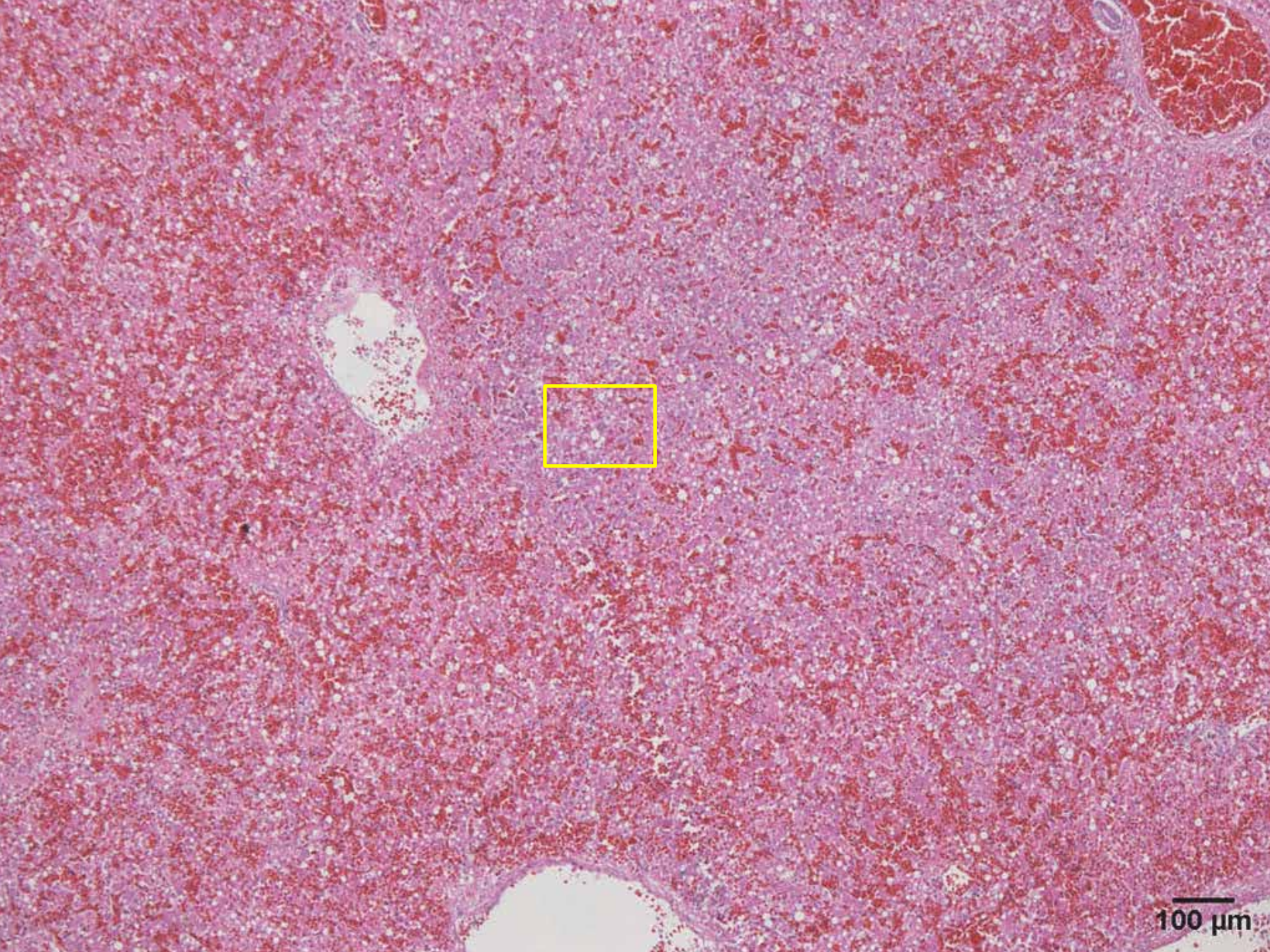
**脾臓と体腔の脂肪組織:** 赤色病変。

**検査結果:** PCR: カモヘルペスウイルス1 [Anatid herpesvirus 1 (AnHV-1)]  
の特異遺伝子を検出。

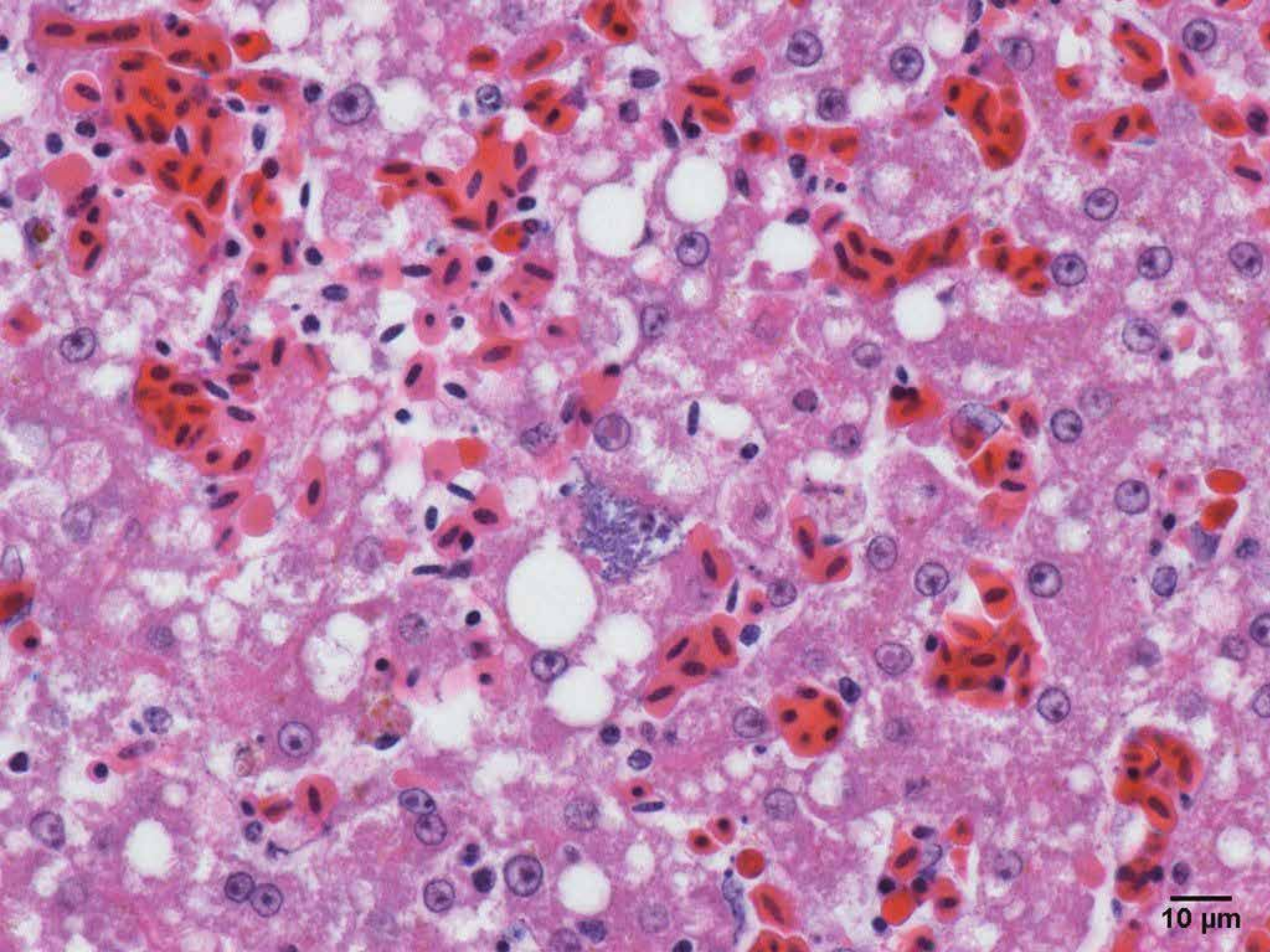
肝臓のグラム染色: 血管内と類洞内にグラム陰性菌を認めた。



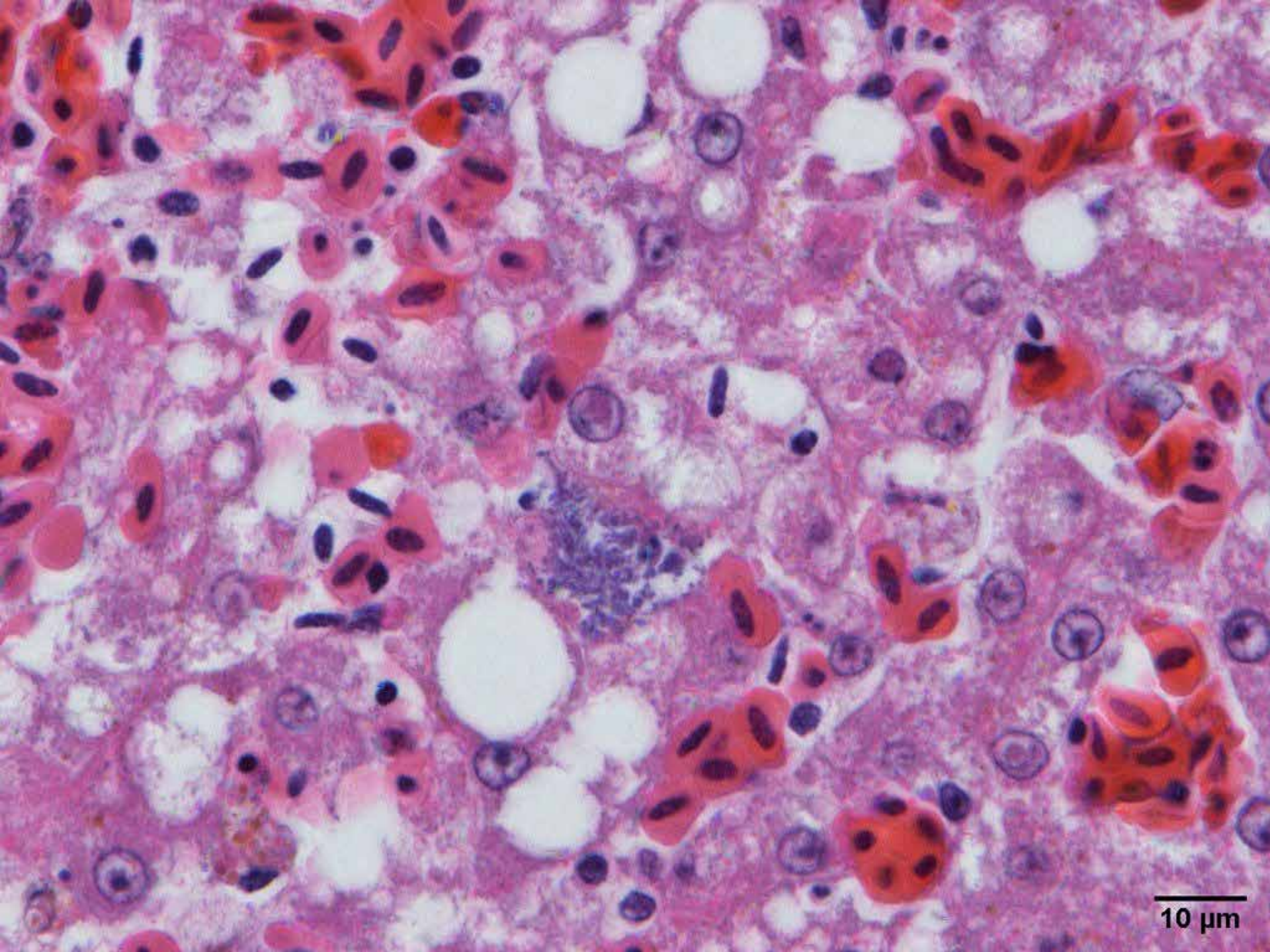
1 mm



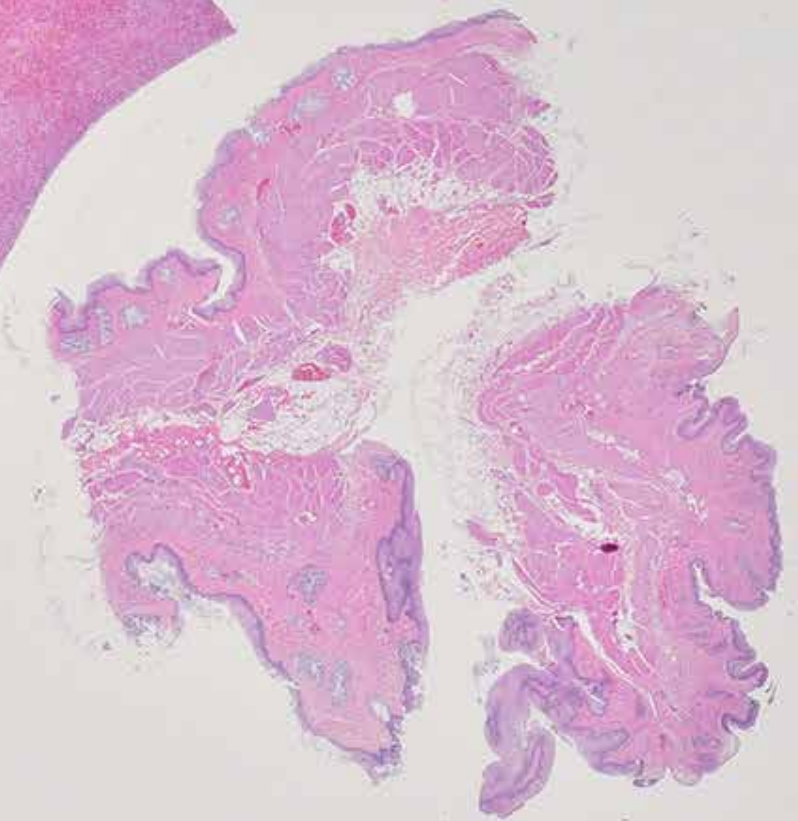
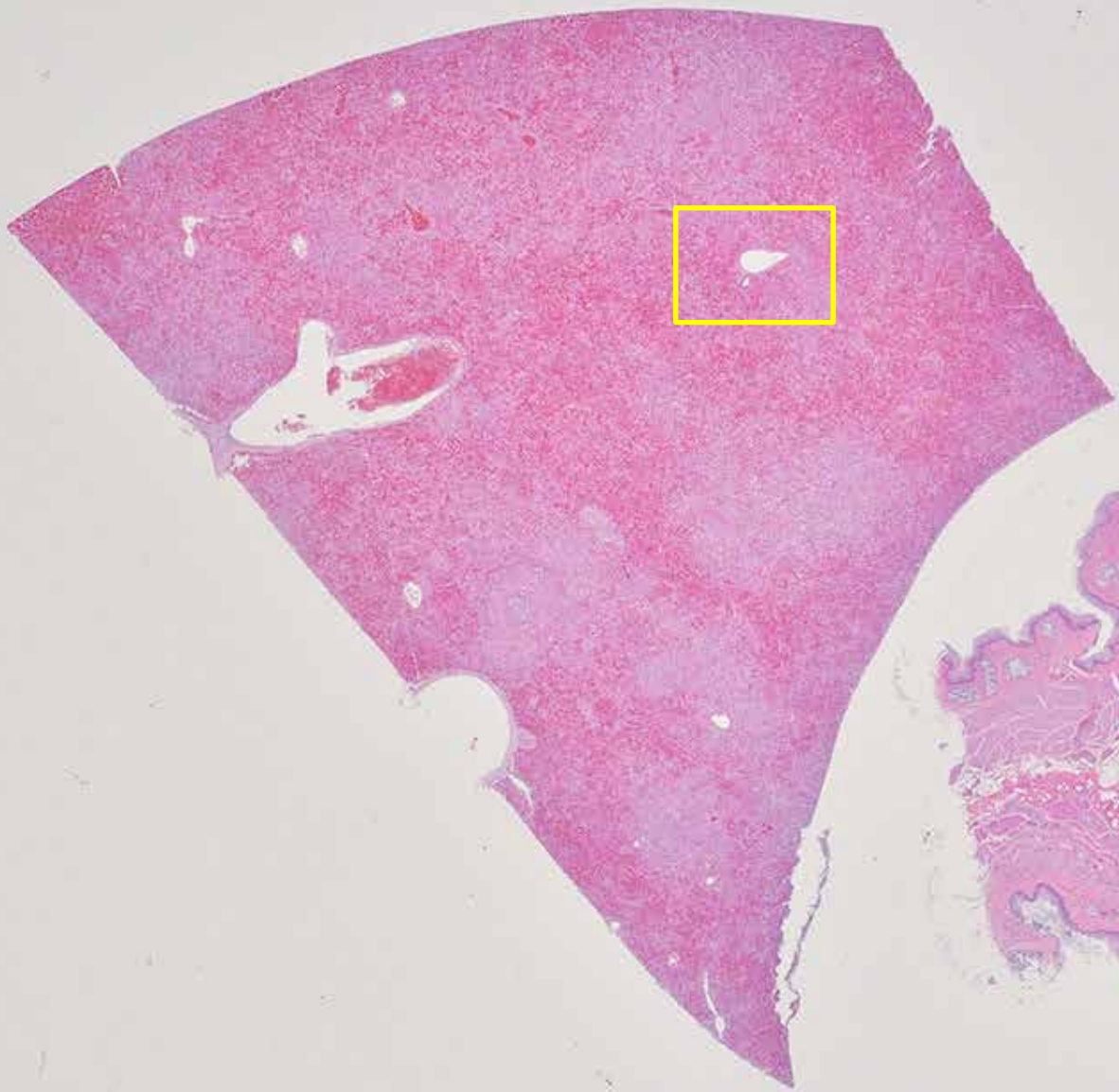
100 μm



10 μm



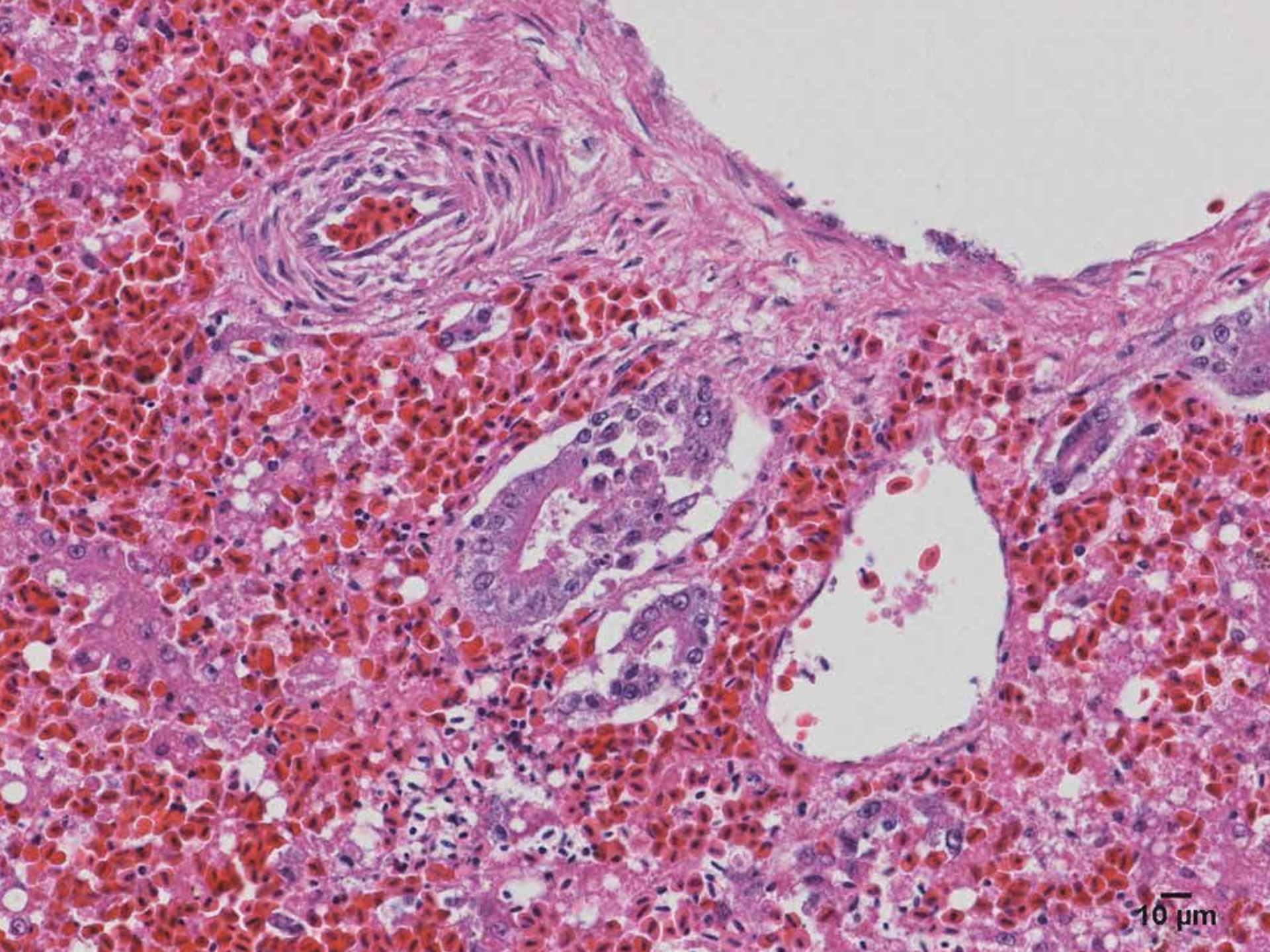
10  $\mu$ m



1 mm

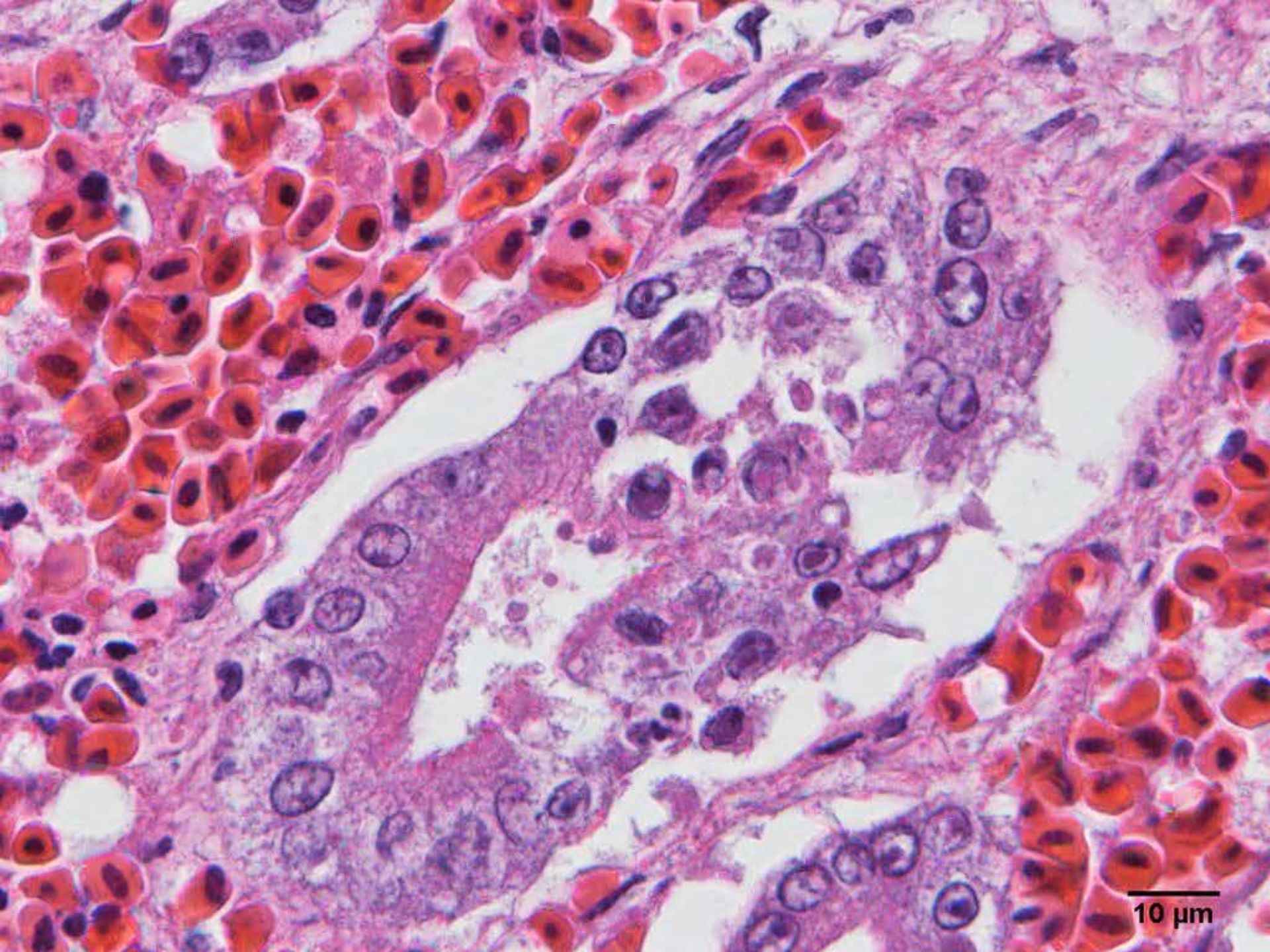


100  $\mu$ m

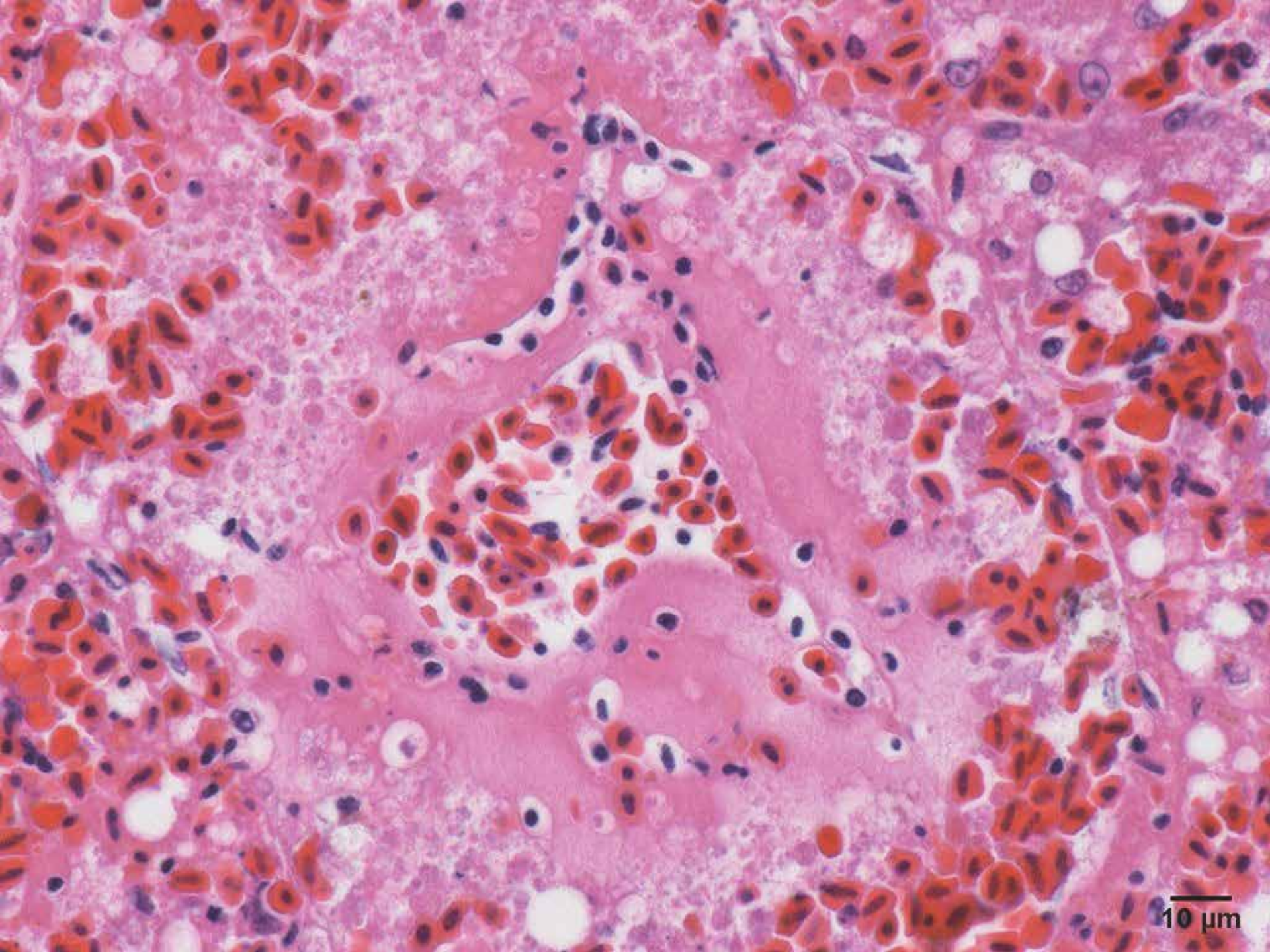


10  $\mu$ m

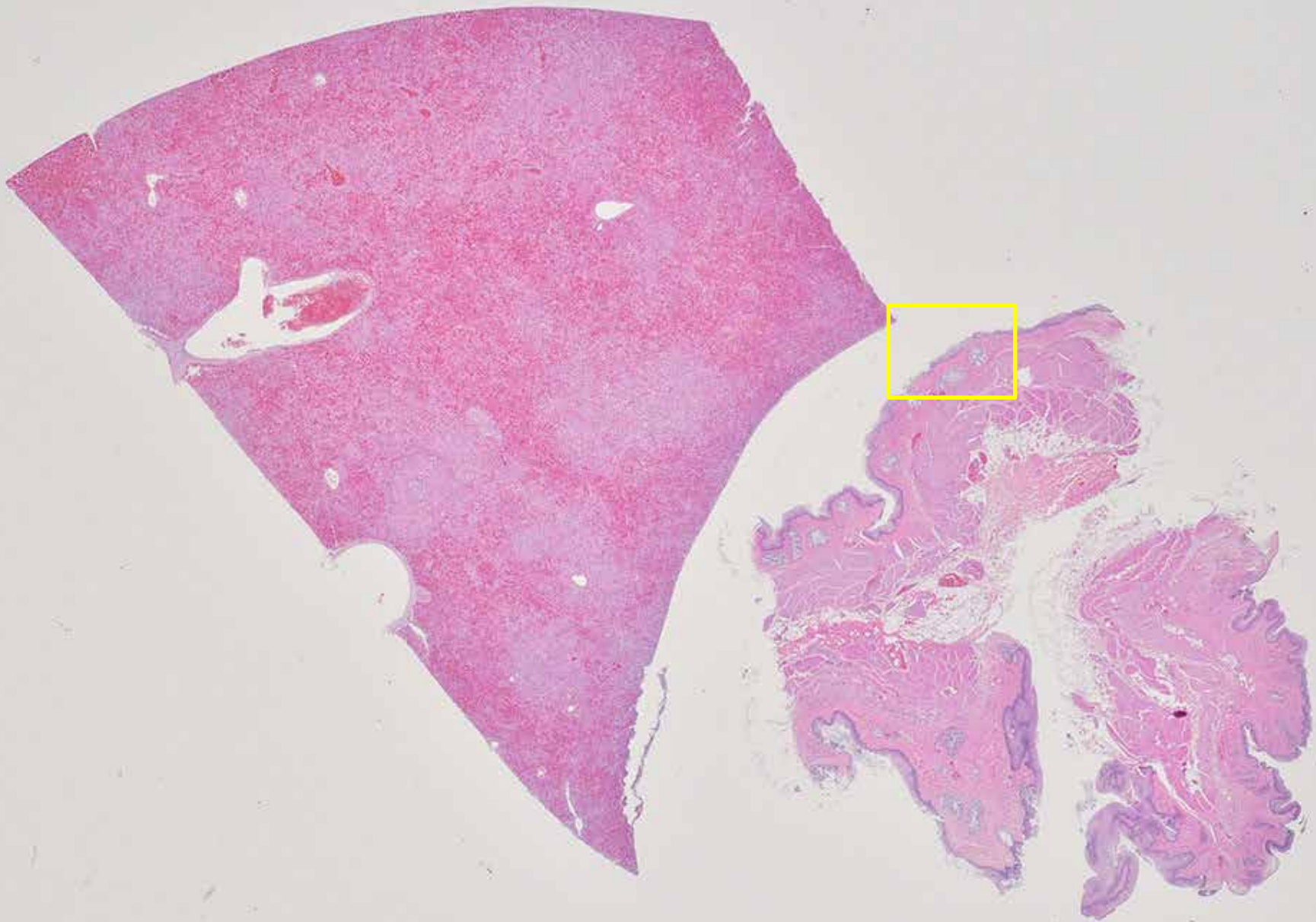




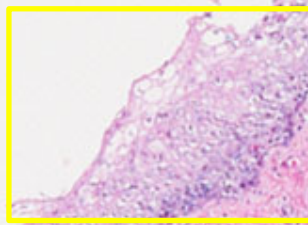
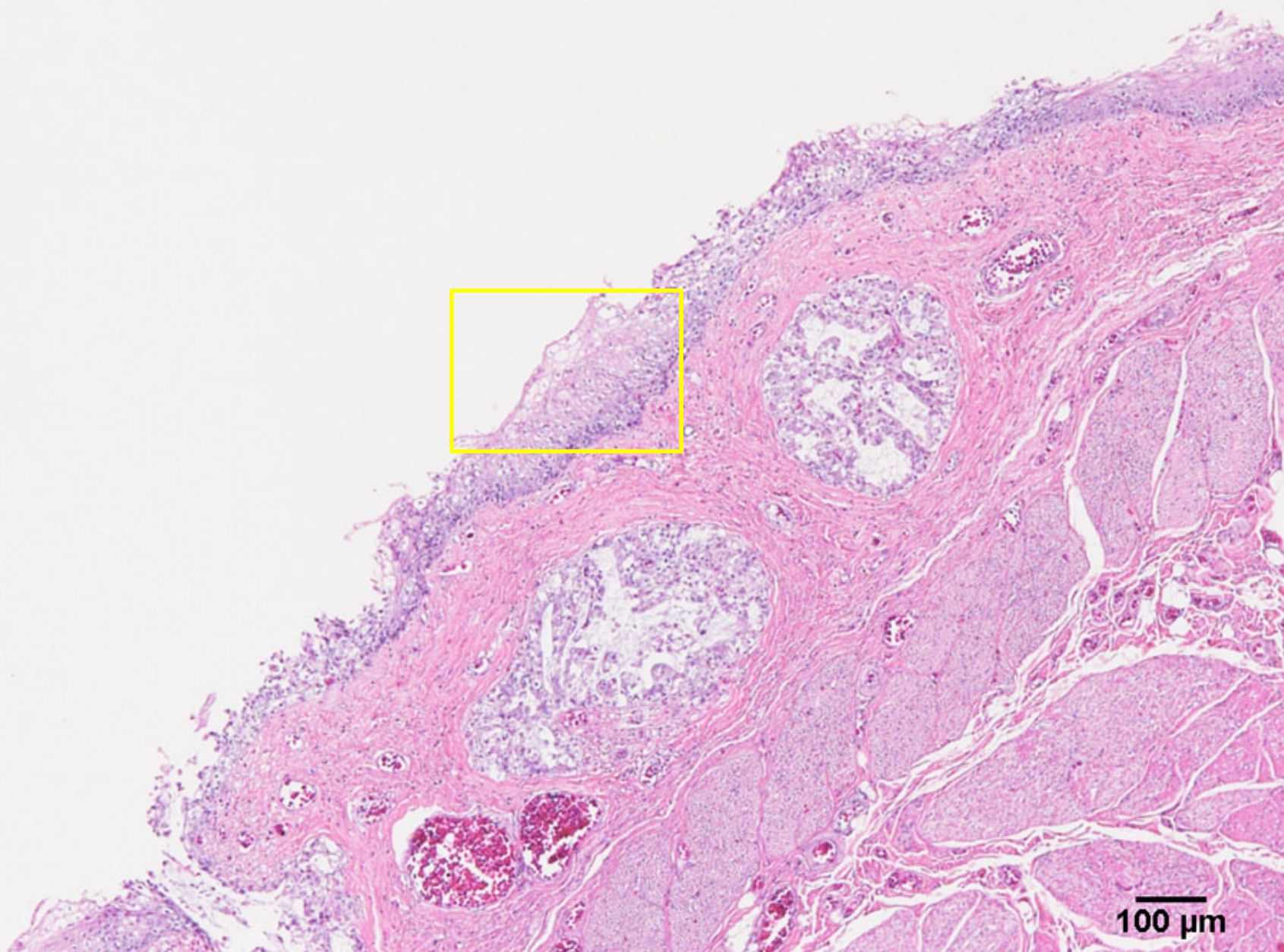
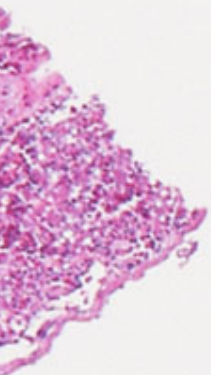
10 μm



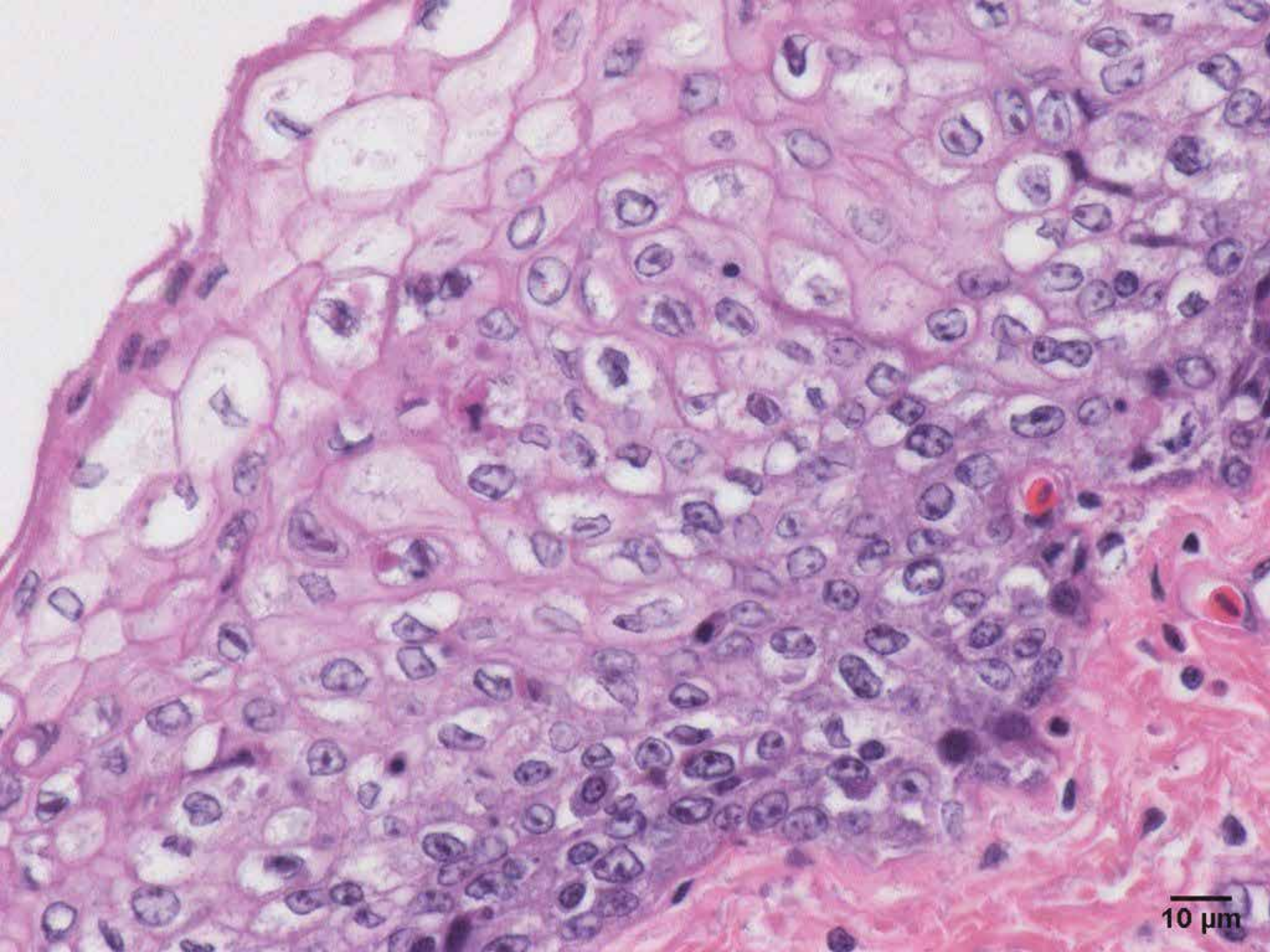
10  $\mu$ m



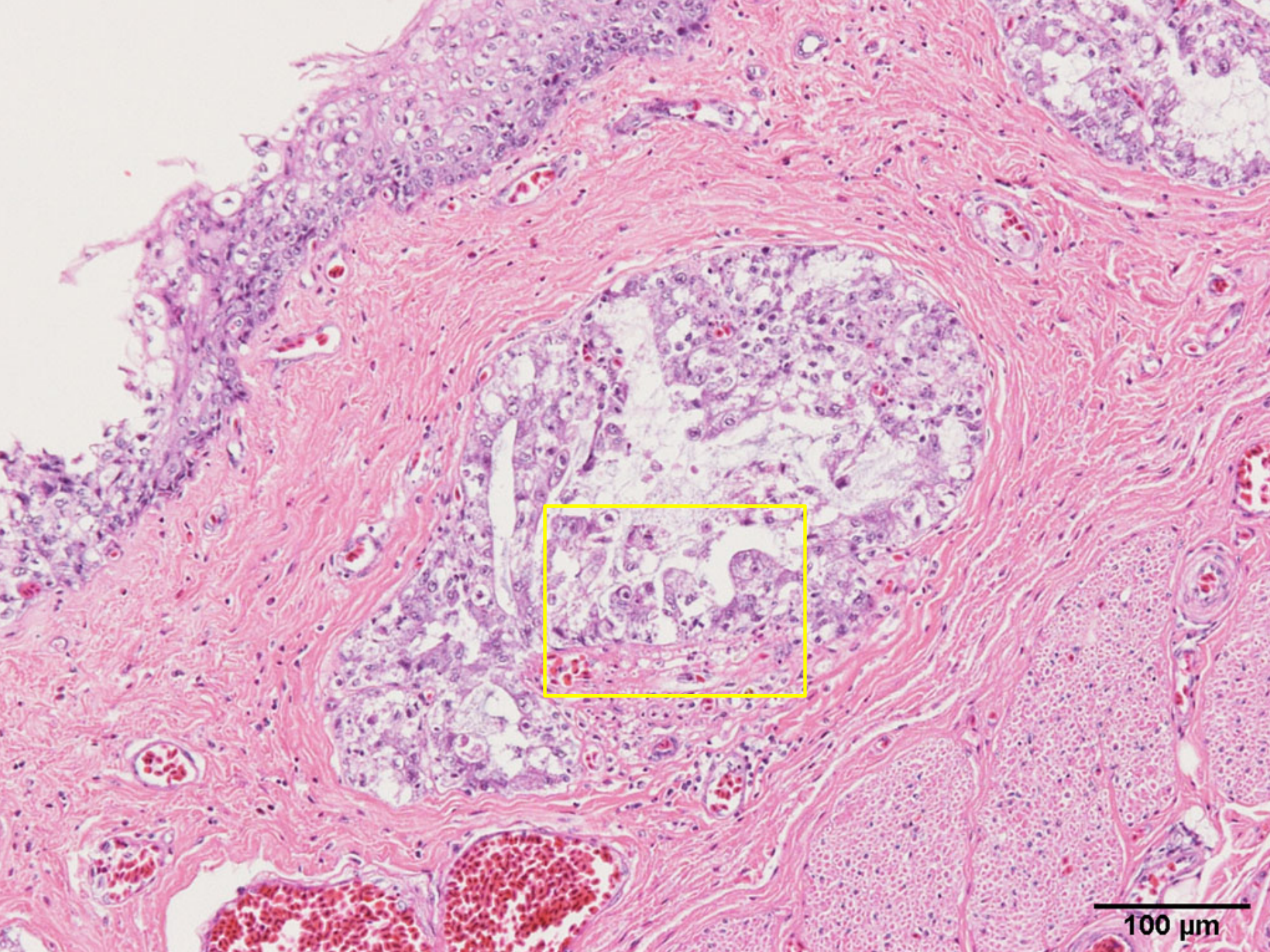
1 mm

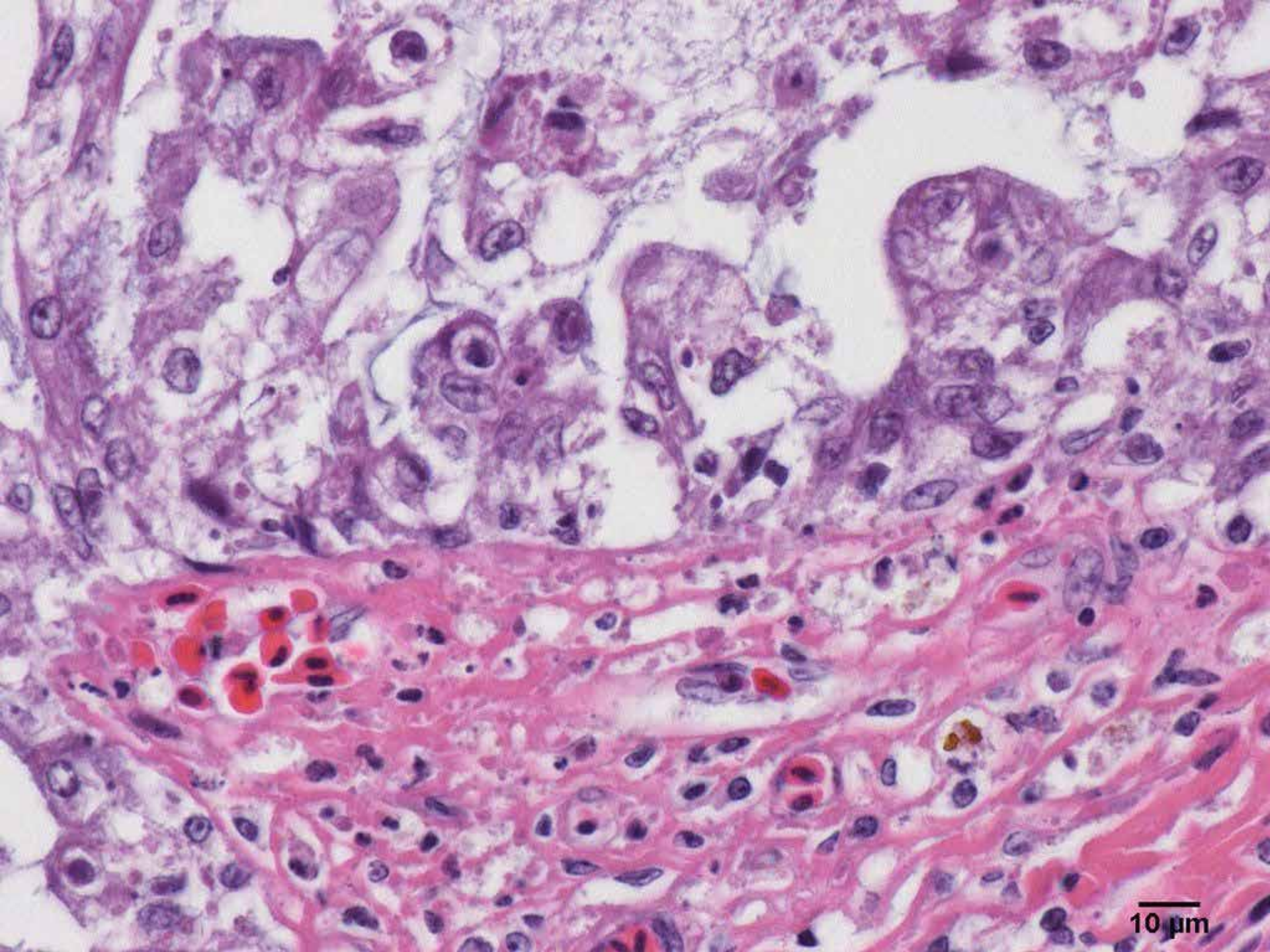


100  $\mu$ m



10 μm





10  $\mu$ m

## 提出者の診断

肝臓:壊死性、急性、ランダム、多発性および単細胞性、著しい、  
核内封入体を伴う、壊死性血管炎、出血と肝細胞の空胞変性  
菌血症、急性、中等度

食道:壊死、急性、多発性、中等度、核内および細胞質内封入体を伴う、  
多発性びらんおよび潰瘍、粘膜下腺壊死

Liver:Necrosis, acute, random, multifocal and individual cell, marked,  
with intranuclear inclusion bodies, necrotizing vasculitis, hemorrhage  
and hepatocellular vacuolar change. Bacteremia, acute, moderate.

Esophagus:Necrosis, acute, multifocal, moderate, with intranuclear and intracytoplasmic  
inclusion bodies, multifocal erosions and ulcers, and submucosal gland necrosis.

## JPCの診断

肝臓:肝炎、壊死性、多発性、中等度、核内ウイルス性封入体および  
壊死性血管炎を伴う

食道:食道炎、壊死性、多発性、中等度、核内および細胞質内ウイルス性封入体  
と粘膜下腺の壊死を伴う

Liver:Hepatitis, necrotizing, multifocal, moderate,  
with intranuclear viral inclusion bodies and necrotizing vasculitis.

Esophagus:Esophagitis, necrotizing, multifocal, moderate, with intranuclear and  
intracytoplasmic viral inclusion bodies and submucosal gland necrosis.



## 提出者のコメント

- ・ヘルペスウイルス感染の典型例。その他重度の線維索性壊死性回腸炎と小腸の分節壊死を認めた(粘膜上皮の欠損により封入体の確認不可)。
- ・AnHV-1は、水鳥にアヒルペストやアヒルウイルス性腸炎(DVE)等の消化器疾患を起こし、フランス鴨、ガチョウ、白鳥を含む多くのカモ目が高感受性。
- ・初感染後の生存個体では潜伏感染を起こし、ウイルスを間欠的に排泄。
- ・汚染された水の経口摂取が主要な感染ルート。
- ・DVEの主兆候は、嗜眠、多飲、嘔吐、出血性or水様性下痢、陰莖脱。感受性の種では、多くの場合死亡する前に臨床症状がない。
- ・Barrらは、DVEを呈すフランス鴨の食道と総排泄腔上皮で細胞質内封入体を確認。本例でも、食道に細胞質内封入体が観察された。
- ・電子顕微鏡では、これらの細胞質内封入体は、エンベロープを有するウイルス粒子の集塊であり、膜に包まれていた。

## 会議のコメント

- ・提出者は、AnHV-1感染についての一貫した要約を提出してくれた。
- ・会議の参加者は、ウイルス性核内および細胞質内封入体の両方が認められたことに感銘を受けた。
- ・ヘルペスウイルスはDNAウイルスのため、通常は核内封入体を形成する。
- ・しかし、近年、AnHV-1、サイトメガロウイルス、マレック病ウイルスで、ウイルス性細胞質内封入体が形成されることが知られてきている。
- ・このことを知っておくことは、パラミクソウイルス感染等との誤診を避けるために非常に重要。